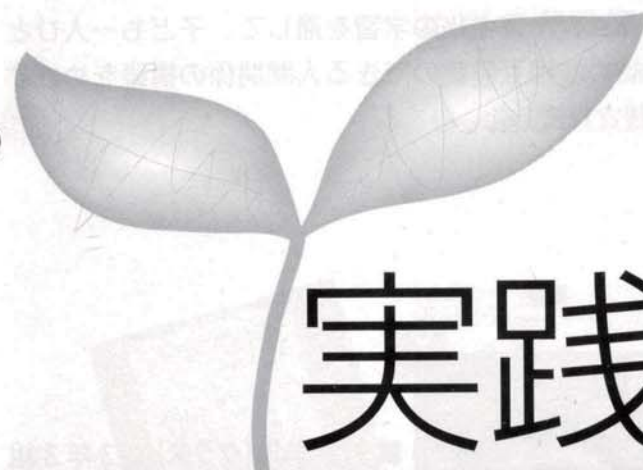


Part

1



# 実践編

実践の概要/  
学習プログラムの指導計画

実践事例①キングとクイーンの「マジックチェア」

実践事例②「三つの話し方」を考えよう

実践事例③「三つの話し方」のうちのどの話し方ですか？

実践事例④さわやかさんでいってみよう

実践事例⑤よく聞くための方法

実践事例⑥自分ってどんな人？

実践事例⑦友だちにほめ言葉をプレゼントしよう

実践者の声、子どもの声

## 実践の概要

本実践は、東京都江戸川区立西小松川小学校において、第3学年における「総合的な学習の時間」の枠を利用して、平成12年度に1年間かけて実践された「コミュニケーション学習」を紹介したものです。

コミュニケーション・スキルの学習を通して、子ども一人ひとりの自尊感情を高め、相互尊重のできる人間関係の構築をめざすことを目標に実践されました。

■対象学年(クラス)：3年3組

児童数：男子13名、女子16名  
(合計29名)

担任：豊田英昭教諭

■実践校：東京都江戸川区立西小松川小学校

全校児童501名。昭和23年に第二松江小分校として開校して以来48年の歴史を持つ。

「考える子・やりぬく子・明るい子」を教育目標に、学区域の特色を生かし、社会体験やボランティア活動を行うなど、特色ある教育活動を行っている。



## 学習プログラムの指導計画

「自ら考え、生き生き学習する子の育成  
—総合的な学習の時間を通して—」

### めざす児童像

- 自分の思いや考えを、人に伝えることができる子
- 人とのやりとりを通して、課題解決ができる子

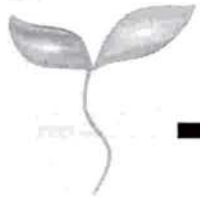
### 1 単元名

「自分を知ろう、友だちを知ろう」

### 2 単元のねらい

- 自分のよさに気づき、自分を大切にする心を育てる。
- 友だちのよさに気づき、友だちを大切にする心を育てる。
- 日常生活で用いるコミュニケーション技能を体験的な学習を通して身につける。





### 3 学級の実態及び単元設定の理由

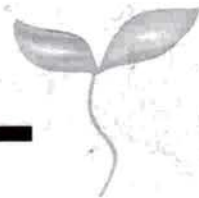
低学年から中学年へと変わり、新しい学級になった当初は、1、2年生での交友関係が密接であったせいも、新しい友だちを作るよりも以前からの交友関係に執着する様子が見られた。学級経営上からも、新しい人間関係をスムーズに形成できるように配慮する必要があった。

子ども一人ひとりを観察する中で、最近の子どもの傾向で、自尊感情 (self-esteem) が低下している児童が多く見られる。自己評価が低く、「自分はたいしたことがない」「友だちに受け入れられていないのではないか」「どうせやってもだめだから」と考えている子も見られた。

一方で、言語的な表現力の課題もあり、自分の考えを積極的に発言する際に、友だちの気持ちに配慮をしない強い表現を使ってしまうケースも見られる。子どもたちは、対人関係におけるコミュニケーションの仕方に課題を抱えているように考えられた。

このような子どもたちの生活や学習における実際的な課題を考察するとき、「子どもと子ども」「子どもと教師」「子どもと親」などの間で行われるコミュニケーションの改善が重要な課題であると考えられた。

そこで、最近注目を集めてきているアサーティブ・コミュニケーション (さわやかな自己表現) のスキル (技能) を総合的な学習の時間に取り入れて、コミュニケーション・スキルの改善を図り、同時に子ども一人ひとりの自尊感情 (self-esteem) を高め、相互尊重のできる人間関係の構築をめざすことを目標にこの単元を設定することとした。



### 4 単元計画

<b>自己尊重、相互尊重のグループワーク (4時間) 6~7月</b>	
1. 自分を大切にしよう (自己尊重のワーク) <input type="radio"/> ほめほめ大会 <input type="radio"/> あなたはワンドフル	自己表現のグループワークに入る前に、子どもたちがお互いを尊重できる関係をつくっておくために実施。
2. 相手を大切にしよう (相互尊重のワーク) <input type="radio"/> ありがとうカード <input checked="" type="radio"/> キングとクイーンの「マジックチェア」	
<b>さわやかな自己表現のグループワーク (12時間) 9~12月</b>	
1. アサーションを理解する (3時間) <input checked="" type="radio"/> 「三つの話し方」を考えよう <input type="radio"/> 「三つの話し方」を試そう <input checked="" type="radio"/> 「三つの話し方」のうちのどの話し方ですか?	アサーション・トレーニングの考え方を取り入れた今回の学習プログラムの中心となるグループワーク。
2. アサーションを育む (4時間) <input type="radio"/> あなたの心の中にいる三人 <input checked="" type="radio"/> さわやかさんでいってみよう <input type="radio"/> 一人一人のさわやかさんを見つけよう <input checked="" type="radio"/> よく聞くための方法	
3. アサーションを生かす (5時間) <input checked="" type="radio"/> 自分ってどんな人? <input type="radio"/> 友だちにインタビューしよう <input checked="" type="radio"/> 友だちにほめ言葉をプレゼントしよう <input type="radio"/> グループで友だちをほめよう <input type="radio"/> 自分にほめ言葉をプレゼントしよう	コミュニケーション・スキルとして学んだことを実践的な課題で試してみるためのグループワーク。
<b>実践的なコミュニケーションのグループワーク (4時間) 1~2月</b>	
1. もめごとを解決しよう (2時間) <input type="radio"/> もめごとを解決しよう (マンガを使って) <input type="radio"/> もめごとを解決しよう (身近かなでき事の解決)	
2. 交渉してみよう (2時間) <input type="radio"/> 自分の考えを伝えよう (身近かな人へインタビューしよう) <input type="radio"/> 自分の考えを伝えよう (インタビュー新聞を発表しよう)	

※ 表中の●印は、本報告書の実践事例で取り上げたものです。  
 上記の単元計画のうち、さわやかな自己表現のグループワークは「子どものためのアサーショングループワーク：自分も相手も大切に作る学級づくり」(園田雅代・中釜洋子2000/日本・精神技術研究所)で紹介されているプログラムをもとに、豊田教諭が自分の学級向けに指導案を作成して実施しました。